

家庭学習の手引き

各務原市立蘇原第一小学校 研究推進委員会

家庭学習の基本的な在り方（構え）

1 学習に集中して取り組める学びやすい環境

保護者と子どもが話し合っ、「どこで学習するのか」や「学習するときの約束やきまり」などについて決めることで、子どもたちが家庭での学習に集中して取り組めることにつながる。



2 「楽しさ」「やる気」を引き出す設定

学校や家庭で、よりよい学び方の工夫を考える機会をもったり、提示したりすることで子どもの学び方に幅ができて、学ぶことに面白さを感じたり、「よしやるぞ」という意欲の向上につながる。

3 課題と振り返りの位置付け



課題をもって取り組み、自分の言葉で学習したことを振り返ることを位置付けることで、学習の見通しももつことができたり、「できた」「分かった」の自覚を促し、学力の定着につなげたりする。

各学年における家庭学習「取り組み方」の目標

学年	各学年における取り組み方の目標	学習時間	丸付け	見届け
1	先生から家庭学習の課題をもらい、家庭で保護者の方に見届けていただきながら、目的をもって進んで学習することができる。	10分以上	保護者	学校 保護者
2	先生から家庭学習の課題をもらったり、自分から克服したいところを見つけて家庭学習の課題にしたりするなどして、保護者の方に見届けていただきながら、目的をもって進んで学習することができる。	20分以上		
3	先生から家庭学習の課題をもらったり、自分で学びたいところを見つけて家庭学習の課題を作ったりするなどして、保護者の方の見届けをいただきながら、目的をもって進んで学習し、自分で振り返ることができる。	30分以上	保護者 学習者 (児童)	
4	先生から家庭学習の課題をもらったり、自分で学ぶ必要があるところや学びたいところを見つけて家庭学習の課題を作ったりするなどして、保護者の方の見届けをいただきながら、目的をもって進んで取り組み、振り返ることができる。	40分以上	学習者 (児童)	
5	先生と課題提出期限日を決め、自分で計画を立て、自ら課題を設定し、進んで取り組み、振り返りができる。	50分以上		
6	先生と課題提出期限日を決め、自分で計画を立て、自ら課題を設定し、学び方（ノート活用・学習の進め方）を工夫しながら、進んで取り組み、振り返りができる。	60分以上		

☆第1学年の家庭学習☆

(1)家庭学習「取り組み方」の目標

先生から家庭学習の課題をもらい、家庭で保護者の方に見届けていただきながら、目的をもって進んで学習することができる。

(2)取り組み内容

- ◆学習時間：10分以上
- ◆家庭学習の量：漢字ドリル・計算ドリルどちらか1つ分（内容によっては2つ分）
 - 音読（文学的な文章・説明的な文章などを用いる。口形と息をはくこと、語のまとめ、言葉の響きを大切にする。）
 - 計算カード（計算の反復練習）
 - 絵日記（2文程度のもの。学年職員で相談の上、定期的に行う。）
- ◆丸付け：保護者 見届け：保護者
- ◆ノート：カドノート（22mm方眼ノート）・ケドノート（18mm方眼ノート）1冊ずつ

(3)家庭学習の例

国語 ・ひらがなプリント ・かたかなプリント （学校で印刷） ・漢字ドリル ・絵日記 ・音読	<ul style="list-style-type: none"> ・字の基本形（「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」「そり」）を身に付けるためにノートに大きなマスを作り、繰り返し字の練習をする。 ・バランスのよい字を書くために、4つの部屋（マスをリード線で区切った4つ）を意識した学習プリントやノートを用いて、繰り返し字の練習をする。 ・したことやあったこと（事実）から、自分が思ったことや考えたことを付け加えて書くことができるように、先生からもらったお題を基に日記を書く。 ・学習した漢字が活用できるように、習った漢字を使って、お家の人と一緒に短い文を作ることができる。 ・漢字の読み方や書き方を覚えるために、空いている箇所練習したり、問題で間違えた漢字は何度も繰り返し練習したりする。 ・語のまとめや言葉の響きに注意して音読するために、姿勢や口形、発声や発音に気を付けて、繰り返し音読練習する。
算数 ・計算ドリル ・計算カード	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能の定着を図るために、計算ドリルで間違えた問題を、もう一度解き直す。 ・たし算、ひき算の定着を図るために、たし算カード、ひき算カードに取り組む。また、さらなる定着を図るために、繰り返し上がりがあるたし算と繰り返し上がりのないたし算のカード、繰り返し下がりのあるひき算と繰り返し下がりのないひき算のカードを混ぜて取り組む。 ・計算の技能の定着を図るために、計算ドリルで間違えた問題を、もう一度解き直す。
生活科 ・生活科プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの季節の移り変わりに気付くことができるために、身近なところで春・夏・秋・冬を見つける。 ・朝顔が元気に育つことができるようにするために、どのようにしたら朝顔が元気に育つのか大人や2年生などに聞いたり、本で調べたりする。 ・身近な自然物を生かして、生活を豊かにすることができることに気付くことができるために、自然物でおもちゃを作ったり、自分の願いに合わせて試行錯誤を重ね、おもちゃを改良したりする。
音楽	【鍵盤ハーモニカ】 <ul style="list-style-type: none"> ・タンギングができるように、「トゥ」で教科書の曲を歌う。 ・「ド・レ・ミ・ファ・ソ」の運指ができるように、五つの音を使った曲を弾いてみる。（ぶんぶんぶん・どんぐりさんのおうちなど） 【拍】 <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れに乗ることができるように、ことばでリズムを作って、家族とつないでみる。（りんごハイバナナハイみかん・・・など）

☆第2学年の家庭学習☆

(1)家庭学習「取り組み方」の目標

先生から家庭学習の課題をもらったり、自分から克服したいところを見つけて家庭学習の課題にしたりするなどして、保護者の方に見届けていただきながら、目的をもって進んで学習することができる。

(2)取り組み内容

- ◆学習時間：20分以上
- ◆家庭学習の量：漢字ドリル・計算ドリルどちらか1つ分（内容によっては2つ分）
音読（文学的な文章・説明的な文章などを用いる。口形と息をはくこと、語のまとめり、言葉の響きを大切に作る。）
九九カード（九九の反復練習）
- ◆丸付け：保護者 見届け：保護者
- ◆ノート：カドノート（12mm方眼ノート）・ケドノート（12mm方眼ノート）1冊ずつ

(3)家庭学習の例

国語 ・漢字ドリル ・音読 ・国語学習プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習。字形のバランスを整えるために、書き方のポイントをノートに書き込む。 ・正しい筆順で書くことができるように、画数を読み上げながら書く。 ・漢字の読み方や書き方を覚えるために、空いている箇所練習したり、問題で間違えた漢字は何度も繰り返し練習したりする。 ・文章を読んで自分の考えをもつことができるように、心に残ったところ（大好きなところ、おもしろいところ、かなしかったところ、うれしかったところなど）を書き抜き、そのわけを書いて本の紹介する文章を書く。
算数 ・計算ドリル ・計算カード ・九九カード ・算数学習プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・2けたのたし算、ひき算の筆算を正しく計算するために、位をそろえることを意識して、ノートのマス目を利用して書く。また、繰り上がりや繰り下がりの1が定着するように赤鉛筆で記入する。 ・3けたのたし算、ひき算の筆算を正しく計算するために、繰り上がりや繰り下がりの1が定着するように記入する。（赤鉛筆でなくてもよい） ・計算の技能の定着を図るために、計算ドリルで間違えた問題を、もう一度解き直す。 ・かけ算九九の定着を図るために、2学期後半から3学期終わりまでかけ算九九カードに取り組む。 ・かけ算九九のさらなる定着を図るために、計算ドリルノートにかけ算九九の表をかいて、1～9の段だけではなく、かけられる数やかける数を2けたまで広げてかけ算九九の表をかく。
生活科 ・生活科プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域には、興味深いところがあることに気付くことができるために、町探検を行い記録する。 ・自分の町に住んでいる人の良さや魅力に気付くことができるために、町の人々の工夫や努力、願いをインタビューすることや活動している様子を見たりして調べ、記録する。 ・身近にあるものを活用することで、生活を豊かにすることができることに気付くために、おもちゃを作ったり、自分の願いに合わせて試行錯誤を重ね、おもちゃを改良したりして、自分なりの達成感を味わう。
音楽	<p>【鍵盤ハーモニカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンギングができるように、「トゥ」で教科書の曲を歌う。 ・ただしい指番号で演奏するために、指番号を見て演奏する。（山のポルカ・小ぎつねなど） <p>【拍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍に乗れるように、かけざん九九を2拍子のリズムにのって唱える。

☆第3学年の家庭学習☆

(1)家庭学習「取り組み方」の目標

先生から家庭学習の課題をもらったり、自分で学びたいところを見つけて家庭学習の課題を作ったりするなどして、保護者の方の見届けをいただきながら、目的をもって進んで学習し、自分で振り返ることができる。

(2)取り組み内容

- ◆時間：30分
- ◆家庭学習の量：漢字ドリル・計算ドリルそれぞれ1つ分（内容によっては2つ分）
 - 音読（文学的な文章のみ音読を行う。登場人物の行動や気持ちなどを表す叙述を基に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を大切に表現する。）
 - 自主学習（先生から課題をもらったり、自分で学びたいところを課題にしたりして取り組む。自主学習1回を1ページ以上とする。）
- ◆丸付け：学習者（児童） 見届け：保護者
- ◆ノート：カドノート（12mm方眼ノート）・その他学習ノート（5mm方眼ノート）1冊ずつ

(3)家庭学習の例

国語 漢字ドリル 音読	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的で効果的な漢字学習による定着を図るために、ドリルを基にして、注意する点を書き加えたり、ラインを引いて目立つようにしたりして復習できるようにする。 ・漢字の読み方や書き方を覚えるために、空いている箇所に練習したり、問題で間違えた漢字は何度も繰り返し練習したりする。 ・ローマ字の読み方や書き方を身に付けるために、日常使われている簡単な単語について、自分でローマ字を書く。また、標識や看板のローマ字をノートに書き写して、カタカナで書いて読む。 ・文学的な文章や説明的な文章を読んで感想や考えをもつことができるように、叙述を基に感じたことや考えたことを書きまとめる読書日記を行う。
算数 計算ドリル 算数の教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルの各ページ（冒頭）に書かれている「めあて」を書き写してから取り組むことができるようにする。丸付けや間違えた問題の見直しが終わった後に、その「めあて」が達成できているのか振り返る。また、自分が大切だと思う部分にコメントを書いたり、ラインを引いたりして、復習をすることができるようにする。 ・3けたのたし算やひき算などの身に付けたい基礎的な計算の技能の定着を図るために、学校で学習した練習問題と同様の問題が位置付けられている教科書の巻末のレッツトライに取り組む。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着を図るために、教科書や授業ノートを参考に、これまでの学習内容をノートに整理し、復習する。 ・自分の住んでいる地域の様子や特徴についての見方や考え方を働かせるために、自分の家の周りの様子や特徴について書き出し、気付いたことをノートにまとめる。（「自分の家の周り→自分のコース→自分の住んでいる地域」など、範囲を広げていく。）
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する興味関心を高めるために、ノートに疑問に思ったことを書く。（どうしてそのように思ったのか、どうしてそうなったと思うのかなどについて、自分なりの考えを添えるとよい。） ・学習と生活をつなげて考える力をつけるために、身の回りの金属を探したり、身の回りの鉄を探したりして絵と文章でノートにまとめる。（スケッチをした後、形や色、大きさについての気付きを書き込む。） ・学習内容の定着のために、温度計、方位磁針などの使い方をまとめる。（観察や実験について、図や表を使いながら、実験方法や実験結果などについてまとめる。）
音楽	<p>【鍵盤ハーモニカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指くぐりができるように、「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド・ド・シ・ラ・ソ・ファ・ミ・レ・ド」ができるように練習する。 <p>【リコーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンギングができるように、「トゥ」で同じ音を吹く。（トゥトゥトゥトゥトゥなど） ・正しい指使いで演奏できるように、パフに挑戦する。 <p>【階名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が読めるように、階名で歌う。（春の小川・海・虫の声など）
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートにまとめるだけではなく、「体を動かす」ことに重きを置きたい。鉄棒、なわとび、登り棒、うんていなどを含め、「遊ぶ」ことで学習の一環と考える。 <p>Ex) 1週間で『どんな遊びを』『どれくらい』行ったかを記録していく程度。</p> <p>(月) キャッチボールを、30分</p> <p>(火) 鬼ごっこを、45分・・・ など</p>

☆第4学年の家庭学習☆

(1)家庭学習「取り組み方」の目標

先生から家庭学習の課題をもらったり、自分で学ぶ必要があるところや学びたいところを見つけて家庭学習の課題を作ったりするなどして、保護者の見届けをいただきながら、目的をもって進んで取り組み、振り返ることができる。

(2)取り組み内容

◆学習時間：40分以上

◆家庭学習の量：漢字ドリル・計算ドリルをそれぞれ1つずつ

音読（文学的な文章のみ音読を行う。登場人物の行動や気持ちなどを表す叙述を基に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を大切に表現する。）

自主学習（先生から課題をもらったり、自分で学びたいところを課題にしたりして、取り組む。自主学習1回を1ページ以上とする。）

◆丸付け：学習者（児童） 見届け：保護者

◆ノート：学習ノート（10mm方眼ノート又は、5mm方眼ノート）1冊ずつ

(3)家庭学習の例

国語 漢字ドリル 教科書 国語の学 習プリント	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み方や書き方を覚えるために、空いている箇所に練習したり、問題で間違えた漢字は何度も繰り返し練習したりする。 慣用句や故事成語を日常的に使えるようになるために、辞書で意味を調べたり、簡単な文章を書いたりする。(ex;実践例の一つに、4コマ漫画で言葉の成り立ちや意味を説明する自主学習も効果的であると紹介されている。) 文学的な文章や説明的な文章を読んで感想や考えをもつことができるように、叙述を基に感じたことや考えたことを書きまとめる読書日記を行う。
算数 計算ドリル 教科書	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルの各ページ（冒頭）に書かれている「めあて」を基に、自分で課題をもって、取り組むことができるようにする。丸付けや間違えた問題の見直しが終わった後に、課題が達成できているのか振り返る。また、自分が大切だと思う部分にコメントを書いたり、ラインを引いたりして、復習をすることができるようにする。 わり算の筆算、小数のかけ算やわり算などの身に付けたい基礎的な計算の技能の定着を図るために、学習した練習問題と同様な問題が位置付けられている教科書の巻末のレツトライに取り組む。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 生活を支える人々の理解を深めるために、地域にある110番の家、ごみ捨て場などを、自分で作った地域マップに表す。さらに、表した結果、気付いたことや考えたことを文章に書く。 都道府県名を覚えるために、白地図に県名を書く。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科に対する興味関心を高めるためにノートに疑問に思ったこと、それに対して調べてノートにまとめる。 学習と生活をつなげて考える力をつけるために、閉じ込めた空気を利用したものを見つけたり、身の回りで水蒸気が水滴が変わるときを見つけたりして絵と文でノートにまとめる。 授業内容の定着のために実験方法、結果、考察、まとめを自分の言葉でノートにまとめたり、温度計、方位磁針などの使い方をノートにまとめたりする。 身の回りの事象を調べるために星、月の観察（時間経過）をしたり、一日の気温を調べたり、季節ごとの生き物の観察（季節ごとの変化）をしたりしてノートにまとめることができる。
音楽	<p>【リコーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> タンギングができるように、「トゥ」で同じ音をできるだけはやく吹く。(トゥトゥトゥトゥなど) 正しい指使いとサミングを使って演奏できるように、オーラリーーと茶色の小瓶に挑戦する。 <p>【音符・作曲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音符が書けるように、音符を書く。(学習プリントを用いて) 「ミ・ソ・ラ・ド・レ」を使って、日本の歌を作曲してみよう。(学習プリントを用いて)
体育	<ul style="list-style-type: none"> ノートにまとめるだけではなく、「体を動かす」ことに重きを置きたい。鉄棒、なわとび、登り棒、うんていなどを含め、「遊ぶ」ことで学習の一環と考える。 <p>Ex) 1週間で『どんな遊びを』『どれくらい』行ったかを記録していく程度。</p> <p>(月) キャッチボールを、30分 (火) 鬼ごっこを、45分・・・ など</p>

☆第5学年の家庭学習☆

(1)家庭学習「取り組み方」の目標

先生と課題提出期限日を決め、自分で計画を立て、自ら課題を設定し、進んで取り組み、振り返りができる。

(2)取り組み内容

◆学習時間：50分以上

◆家庭学習の量：漢字ドリル・計算ドリルをそれぞれ1つずつ（先生が学習内容を指定する）

音読（文学的な文章のみ音読を行う。登場人物の行動や気持ちなどを表す叙述を基に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を大切に表現する。）

自主学習（先生と課題提出期限日を決めて、自分で計画を立てて、1週間に5回の自主学習を行う。自主学習1回を1ページ以上とする。）

◆丸付け：学習者（児童） 見届け：保護者

◆ノート：学習ノート（10mm方眼ノート又は、5mm方眼ノート）1冊ずつ

(3)家庭学習の例

国語 漢字ドリル・教科書 国語の学習プリント	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み方や書き方を覚えるために、空いている箇所に練習したり、問題で間違えた漢字は何度も繰り返し練習したりする。 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表すことができるように、新聞や図鑑などの図表やグラフを用いたり、自分の考えを補説できそうな言葉や文を引用したりするなどして意見文を書く。
算数 計算ドリル 教科書	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルの各ページ（冒頭）に書かれている「めあて」や自分の日頃の学習で弱い点に注目し、自分で課題をもって、取り組むことができるようにする。丸付けや間違えた問題の見直しが終わった後に、課題が達成できているのか振り返る。また、自分が大切だと思う部分にコメントを書いたり、ラインを引いたりして、復習をすることができるようにする。 学校での学習内容の理解を深めるために、次の日の学習内容の予習をする。 単元テストで間違えた問題から、確実な理解をするために、ノートに間違え直しをする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地理的な見方・考え方を身に付けるために、どんな産業が行われているかを日本地図に表し、気付いたことや考えたことを書く。 日本の産業の特色を詳しく理解したりするために、都道府県別で産業調べをし、ノートにまとめ、気付いたことや考えたことを書く。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科に対する興味関心を高めるためにノートに疑問に思ったこと、それに対して調べてまとめたり、理科に関する新聞記事の切り取りと考えたことを書いたりする。 学習と生活をつなげて考える力をつけるために、でんぷん調べ（ヨウ素でんぷん反応）をしたり、他の生き物の育ち方調べ（卵の中の様子など）を行ったりして、ノートにまとめることができる。 授業内容の定着のために、ノートに実験方法、結果、考察、まとめを自分の言葉で書いたり、顕微鏡などの使い方を書いたりする。 身の回りの事象を調べるために、雲の観察（時間経過）をしたり、台風の経路を調べたりしてノートに記録する。また、台風・水害の被害についてインターネット、新聞等で調べてノートにまとめたりする。
英語	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの大文字・小文字を、活字体で4線上に何も見ずに書けるようになるために、A～Z（a～z）まで手本を見て順に書き写す。 単語を書くことに慣れるために、身近な英単語を書き写す。
音楽	<p>【リコーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> タンギングができるように、「トゥ」で同じ音を吹く。（トゥトゥトゥトゥトゥなど） 正しい指使いとファ#, シ♭を使って演奏できるように、威風堂々や冬景色に挑戦する。 <p>【記譜】・楽譜が書けるように、記譜してみる。（このぼり・子守歌・冬景色など）</p> <p>【調べ学習】・作曲家について知るために、山田耕筰について調べる。</p>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 安全に効率よくおいしい料理を作れるようにするため、調理用具の名前や使い方、種類をまとめる。 整理整頓ができるようにするために、整理整頓の工夫を調べたり、自分の家で実践したりする。

☆第6学年の家庭学習☆

(1)家庭学習「取り組み方」の目標

先生と課題提出期限日を決め、自分で計画を立て、自ら課題を設定し、学び方（ノート活用・学習の進め方）を工夫しながら、進んで取り組み、振り返りができる。

(2)取り組み内容

◆学習時間：60分以上

◆家庭学習の量：自分で計画を立てて、1週間に計算・漢字ドリルをそれぞれ5つずつ進める。

音読（文学的な文章のみ音読を行う。登場人物の行動や気持ちなどを表す叙述を基に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を大切に表現する。）

自主学習（先生と課題提出期限日を決めて、自分で計画を立てて、1週間に5回の自主学習を行う。自主学習1回を1ページ以上とする。）

◆丸付け：学習者（児童） 見届け：保護者

◆ノート：学習ノート（10mm方眼ノート又は、5mm方眼ノート）1冊ずつ

(3)家庭学習の例

国語 漢字ドリル 教科書 国語の学 習プリント	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み方や書き方を覚えるために、空いている箇所に練習したり、問題で間違えた漢字は何度も繰り返し練習したりする。 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表すことができるように、新聞や図鑑などの図表やグラフを用いたり、自分の考えを補説できそうな言葉や文を引用したりするなどして意見文を書く。 文学的な文章に登場してくる人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるように、登場人物の絵を描いて、矢印を工夫して、吹き出しも加えて、人物相関図を作る。 説明的な文章を読んで、文章と図表などを結び付けて読むことができるように、新聞の記事を切り抜いたり、学習に関わる雑誌の切り抜きをノートに貼ったりして、感想を書く。
算数 計算ドリル 教科書	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルの各ページ（冒頭）に書かれている「めあて」や自分の日頃の学習で弱い点に注目し、自分で課題をもって、取り組むことができるようにする。丸付けや間違えた問題の見直しが終わった後に、課題が達成できているのか振り返る。また、自分が大切だと思う部分にコメントを書いたり、ラインを引いたりして、復習をすることができるようにする。 学校での学習内容の理解を深めるために、次の日の学習内容の予習をする。 単元テストで間違えた問題から、確実な理解をするために、ノートに間違え直しをする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 時間の流れや、歴史上の人物への理解を深めるために、年表を作る。 時事的な問題に関心をもったり、現代社会の人の営みへの理解を深めたりするために、ニュースについての意見文を書く。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科に対する興味関心を高めるためにノートに疑問に思ったこと、それに対して調べてまとめたり、ノートに理科に関する新聞記事の切り貼りして、そこから自分が考えたことを書きまとめたりする。 学習と生活をつなげて考える力をつけるために、身の回りのでこ探し（支点・力点・作用点見つけ）をしたり、身の回りの電気の利用について探したりして、見付けたことをノートに書きまとめる。 授業内容の定着のために実験方法、結果、考察、まとめを自分の言葉でノートにまとめたり、気体検知管、電源装置などの使い方をノートや学習プリントでまとめたりする。 身の回りの事象を調べるために月の観察（日ごとの経過観察）を行い、ノートに工夫して記録する。
英語	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの大文字・小文字を、活字体で4線上に何も見ずに書けるようになるために、①A～Z（a～z）まで見ずに書けるかどうか試してみる。②書けなかった文字の名前を声に出して読みながら、何度も書く。 単語を書くことに慣れるために、身近な英単語を書き写す。 語と語の間隔に気を付けて、英文を書けるようになるために、授業で扱った英文を書き写す。
音楽	<p>【リコーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> タンギングができるように、「トゥ」で同じ音を吹く。（トゥトゥトゥトゥトゥなど） いろいろな曲に挑戦してみる。（ミッキーマウスマーチ・崖の上のポニョ・ピタゴラスイッチなど） <p>【楽譜を読む・記譜】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽譜を読んだり書いたりできるように、記譜してみる。（ふるさと・朧月夜・われは海の子） <p>【調べ学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作曲家について知るために、滝廉太郎について調べてみる。 日本の音楽について知るために、雅楽について調べてみる。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ゆでる、いためる、切るなどの調理をできるようにするために、切り方の種類や料理を調べたり、家で実践したことをノートにまとめたりする。 工夫して掃除をできるようにするために、昔から伝えられた知恵や不用品を生かした掃除道具を調べたり、自分の家で実践したことをノートにまとめたりする。